

達摩大師ゆかりの地参拝の旅 5日間

南インド・カンチプラム出身の高僧であった菩提達摩（達摩大師）は520年、南北朝時代の中国に入り、嵩山少林寺において面壁九年の後、禪宗を創立しました。528年10月に洛陽の千聖寺にて示寂され、12月28日、多くの弟子たちにより熊耳山空相寺において葬儀が行われました。「禪宗初祖」と称された偉大なる達摩大師ゆかりの地を巡り、その足跡と生涯を辿ります。

1	各地空港 ⇒ 上海 ⇒ 西安 空路、上海で乗り継ぎ、西安へ 【西安泊】
2	西安 ⇒ 三門峡 午前、西安郊外見学（兵馬俑、秦の始皇帝陵、華清池） 午後、西安市内の寺院参拝（大雁塔、小雁塔、興教寺） 夕方、列車で三門峡へ 【三門峡泊】
3	三門峡 ⇒ 熊耳山空廂寺 ⇒ 龍門石窟 ⇒ 洛陽 午前、熊耳山空廂寺にて達磨大師の墓塔や石碑を参拝 午後、中国三大石窟の一つ龍門石窟を見学 洛陽へ 【洛陽泊】
4	洛陽 ⇒ 白馬寺 ⇒ 少林寺 ⇒ 鄭州 ⇒ 上海 鄭州へ 途中、白馬寺と少林寺を参拝 鄭州より空路、上海へ 【上海泊】
5	上海 ⇒ 各地空港 空路、帰国の途へ 入国手続き、税関の後、解散

少林寺

河南省登封県嵩山少室山北麓の五乳峰下にある寺院です。496年、孝文帝が天竺僧仏陀禪師のために創建したと伝えられ、達摩大師が面壁九年して座禅したと伝えられる名刹です。

寺域は大きく、山門、客殿、大雄宝殿などの多くの堂宇があります。伽藍南西に二祖庵、五乳峰中腹に達磨洞があり、皇唐崇岳少林寺碑、唐太宗御書碑、息庵禪師行実之碑などが名高いものです。



少林寺



塔林

白馬寺

河南省洛陽郊外にある後漢・永平（1世紀）頃に創建された、中国史上最初の仏教寺院とされています。後漢の明帝が経論を請来するために月支国に遣わした使節が経論や仏の画像を白馬に背負わせて帰国した故事にちなみ、この寺院を建立するに際して白馬寺と名付けました。西晋時代に竺法護が「正法華經」を訳出するなど、中国仏教の中心的な寺院として栄え、その後、幾度が廃寺になりましたが、その度に再興され、現在に至っています。



大佛殿



羅漢像

空廂寺

河南省三門峡市東部の熊耳山の麓に位置しています。定林寺、熊耳山寺などと呼ばれていた時代もありました。後漢代の65年頃に建立されました。この空廂寺には達摩大師の墓塔や石碑などがあります。



空廂寺



達磨大師の墓塔

西安

シルクロードの東の起点として繁栄した古都で、現在は陝西省の省都です。紀元前12世紀頃に西周が鎬京として都を設置以来約2,000年の間に秦や前漢、随、唐をはじめ、11の王朝の都となりました。紀元前202年に興った前漢の時代から西安は「長安」の名が使われるようになり、栄華を極めた唐代には西方の外国人で賑わう大都市へ発展しました。「西方を安ずる」という意味の西安の名は明代に付けられました。

玄奘三蔵の訳経道場だった大雁塔や小雁塔、玄奘三蔵の墓塔がある興教寺、空海や円仁が留学した青龍寺、浄土教の高祖・善導大師の墓塔がある香積寺、鳩摩羅什の訳経道場だった草堂寺など、仏教に深く関連した史跡が数多く遺っています。

また、日本と西安の交流の歴史は古く、遣隋使や遣唐使が送られ、日本文化に大きな影響を与えました。



大雁塔



香積寺

龍門石窟

洛陽市内から南12kmの伊河のほとりに連なる巨大な石窟群です。495年前後の北魏時代から約400年にわたって掘り続けられ、南北1kmに連なる石窟群には、大小合わせて約10万體にも及ぶ仏像が彫り込まれています。

彫刻の様式は、面長でなで肩、首が長い造形であり、華奢な印象を与える点が特徴です。また、中国固有の造形も目立ち、裳懸座が発達して、装飾も繊細で絵画的な表現がされるようになります。

代表的な石窟は、675年に完成した奉先寺洞です。これは高宗の発願になるもので、皇后の武氏（則天武后）も浄財を寄進しています。本尊の盧舍那仏の顔は、その則天武后をモデルにしたと言う説など諸説ありますが、真相はともかくとして、わずかに微笑みを含んだ慈悲深い顔立ちはとりわけ印象的です。



奉先寺洞